

クラスの男子の間でフルボッキしたちんちんを女子に見せる遊びが流行った

私が子どもだった時の話。クラスの男子の
間で変な「遊び」が流行り始めた。「フル勃起したおちんちんを女子に見せる」っていう、頭おかしい遊び。誰が始めたのか誰も知らないけど、たぶん休み時間にふざけてた誰かが調子に乗ってやったのがきっかけだと思う。男子は教室の隅や校庭の物置の裏で、ニヤニヤしながらズボンを下ろして女子に見せつける。女子は全員、キャーって悲鳴を上げて逃げて、顔を真っ赤にして嫌がった。私もその遊びが本当に嫌だった。だって、私は今までおちんちんを見たことなんてなかったし、性のことは何も知らなくて、急にそんなものを見せられたら、本当に恥ずかしかった。

初めてそのおちんちんを見たのは、四月の終わりの昼休み。教室の後ろで、男子のグループが集まってヒソヒソ話していた。山田くん、クラスのリーダー格で、背が高い子が、「おい、悠二、次はお前な！」って大声で言った。悠二は私の幼馴染で、隣の家に住んでいる。ちっちゃい頃から一緒にカブトムシを捕まえに行ったり、夏休みに花火を見たりした、優しい男の子だ。悠二は顔を真っ赤にして、「やだよ、恥ずかしいって！」って小声で抵抗したけど、隆に「ビビってんのかよ！ 男ならやれよ！」って肩を叩かれて、渋々パンツを少し下ろした。